

西 純一の  
精神障害者  
ホームヘルパー  
日記

西 純一

Junichi Nishi



文芸社

# 電子書籍の操作について

- ・ 目次をクリックすると、該当ページまで移動します。  
また、移動先ページの見出しをクリックすると、目次に戻ります。
- ・ 「十字キー」やマウスのホイールを使用して読み進めます。
- ・ 「フルスクリーンモード」に設定すると、読みやすくなります。

「フルスクリーンモード」設定方法

メニューバー「表示」→「フルスクリーンモード」

Escキーで元の表示に戻ります。

※パソコン環境により、「フルスクリーンモード」が使用できない場合があります。

西 純一の  
精神障害者  
ホームヘルパー  
日記

西 純一

Junichi Nishi





## はじめに

そう、あれはもう5年程前のことになります。

「精神障害者」として「精神障害者の作業所」に通いながら、何とか社会復帰したいともがいていた頃、作業所の職員さんに、この仕事を勧められ、ホームヘルパーの資格を取り、働き始めたのは……。

この本は、長い闘病生活の末に「精神障害者ホームヘルパー」という仕事に就いた経緯を記した前作『精神障害を乗り越えて〜40歳ピアヘルパーの誕生』の続編、その後の私の足跡の記録です。

ピアヘルパーとは「仲間を助ける人」という意味で、様々なケースがありますが、私の場合は、同じく精神障害のある方の生活支援をしています。

今や、私は44歳となり、実務経験も3年以上経過しました。そこで、自身のステツプアップ及び幅広い知識を身に付けた上で仕事を行いたいという観点から、国家資格「介護福祉士」の試験を受験し、幸いにも合格することができました。しかもこの期間、まだ一度も体調を崩さずに仕事を続けています。

これから紹介するのは、今までに私が担当させていただいた「ご利用者様」のサーピス事例（エピソード）です。当然、失敗談も多く含まれています。それだけに、ピアヘルパーを目指している方は、読んだあと、少したじろいでしまうかもしれません。

しかし、長い闘病生活を送っていた私でもやっていける仕事です。どうか志をもって挑戦していただきたいと願います。

また、ピアヘルパーを目指している方だけでなく、同じ「精神障害者ホームヘルパー」の仕事をしていらっしゃる方を始め、「高齢者のホームヘルパー」の経験はあるが「精神障害者のホームヘルパー」の経験はないという方、さらに「精神保健の仕

はじめに

「事」に係わっている方、「精神保健の仕事に就きたいと日夜勉強されている方々」及び「このような分野に関心のある方」、皆さんに読んでいただきたい一冊です。本書が、少しでも読者のお役に立てる内容になっていることを願う限りであります。



西純一の精神障害者ホームヘルパー日記 目次

第1章 死とのはざま

死にたい死にたいと呟いていたAさん 13

リストカットしていたBさん 22

何一つ自分で行おうとしなかったCさん 28

長期入院から退院したばかりだったDさん 39

手術が遅かったため、病の進行を止められず苦しみ続けているEさん 45

第2章 愉快な方達

ウクレレを弾いてくれたFさん 55

精密な絵を描きマニアックな音楽を聞かせてくれたGさん 62

一人笑いの絶えなかったHさん 69

機関銃のように話しかけてくる、小鳥を飼っていたIさん 73

ニコニコ笑顔の絶えない水戸黄門と相撲好きなJさん 80

### 第3章 ドヤ街で暮らす方達

治安の悪い街で金銭トラブルのカモになっていたKさん 89

ボロボロのロングジャンパーをいつまでも洗わなかったLさん 96

松葉杖生活から解放されたMさん 103

心臓手術を拒み続けたNさん 107

ホームレスに見えてしまうOさん 112

### 第4章 美しき姉弟愛

お姉様の前では不機嫌になってしまいうJさん 123

お姉様達が作ってくれた料理に文句をつけるPさん 127

## 第5章 一般常識では計りかねる方達

フリーマーケットがある度に洋服・帽子などを果てしなく

買い求めるQさん

水道の蛇口や扉を触れず室内を土足で生活していたRさん 147

入退院を繰り返し続けるSさん 157

## 第6章 番外編

とても怖かったTさん 163

おわりに——あとがきにかえて 172

第1章

**死とのほざま**

---

高齢者を相手に仕事をしているホームヘルパー、または高齢者福祉施設などで働いている方達は、「ご利用者様の死」に直面する機会は非常に多いことだろうと思います。

しかし、私が行っている「精神障害者」の「ホームヘルパー」の仕事においても、「ご利用者様の死」や「自殺未遂」の現場に直面することがあります。

この章は、そんな方達の事例をまとめました。

## 死にたい死にたいと呟いていたAさん

病名：統合失調症・高血圧症、年齢：63歳、単身、サービス内容：買い物代行・掃除・

製容介助（身体清潔保持）・血圧測定・たまに代行で通院同行

この方は、前作『精神障害を乗り越えて〜40歳ピアヘルパーの誕生』に、記念すべき最初のご利用者様Tさんとして登場しましたが、その後、いろいろなことがありました。

まず、サービス開始時の対応です。

ベルが無いので玄関の扉を叩くと、「開いてるー」との声が聞こえて来る場合。

そして、しばらく沈黙の後力ギが開き、挨拶しても無言でAさんが自室に戻ってしまふ場合の2パターンでした。

Aさんのサービス内容は、他の方と比べてかなり異質なもので、人恋しいため、月曜日から土曜日まで、時間帯は異なるものの毎日のようにヘルパーがサービスに入るといったものでした。

具体的には、スーパーやコンビニエンスストアでリクエストされた品を購入し、簡単に掃除等を済ませ、血圧測定をして記録をとり、ヒゲが伸びていたら小さなバリカンで剃り、あとは退屈そうに布団の上で横になっているAさんの様子を静かに見守る、というサービス内容です。

しかし、掃除やヒゲ剃りも、「やらなくていい!」と拒否されることが多く、また、買物の品も「おむすび2つ、肉まん3つ」と毎回ほとんど決まっており、「コレステロール値があまりに低いので、もう少し栄養のある品を」とこちらがいくら提案しても、断固として受け入れてもらえませんでした。

ちなみにAさんのお宅は一軒家でしたが、2階は洗濯物を干すくらいでほとんど使われておらず、1階はAさんが横になって寝ている寝室とリビング、台所という構造

になっていました。

私がい物から帰って来ると、「おむすび、そこに置いといて!」と言い、布団上で横になったまま、肉まんをむしゃむしゃと頬張ります。

食べかすが散らかってしまふので掃除機をかけようとすると、返ってくる一言は大抵、「いいよ!」でした。

しかしそれでは仕事になりませんので、私はゴミクズを掃除機で吸い取ったり、リビングの掃除機がけやテーブルの上を拭いたりしていました。Aさんがどうしても嫌がる時は、あえて掃除機を持ち出さず、Aさんに気付かれないように密かにゴミ拾い(おむすびのご飯粒や肉まんの食べかす)に終始しました。

血圧測定も、最初は私が眠そうなAさんに測定器をはめて記録をとっているだけでしたが、人間関係が成り立って来るに連れて、Aさんに自分の症状(高血圧)を少しは自覚してもらいたく、血圧計の数値を読み上げてもらうことにしました。

Aさんは、面倒臭そうに「164、112、69(これは脈拍)」と血圧計の数値を

読み上げ、そしてまた寝室へ戻って行きます。

それをしばらく続けたあと、数値を読み上げるだけでなく、血圧計を自分ではめてもらうことに挑戦しました。

最初は「できないよ！」と言われましたが、私は「いや、できますよ！」と返しました。

「あなたも意地悪だなー」と嫌な顔をされましたが、自分の健康管理です。自分でできることは自分で行ってもらおうという、介護福祉士の役割でもある「障害者に対する自立支援の姿勢」を持って、嫌がられようが何と思われようが、根気よく続けました。

結果、この作戦は成功し、Aさんは、自分の血圧は自分で計ってくれるようになりました。

血圧測定記録は引き続き私が行いましたが、Aさんが自分の高血圧症について気を配ろうという行動にまで変化することがなかったのは、少し残念でした。

# 途中省略

続きは製品版にてお読みください。

## 著者プロフィール

**西 純一** (にし じゅんいち)

出身：某県某市

生年：1966年

職業：精神障害者専門ホームヘルパー

資格：介護福祉士

趣味：スポーツ、読書、音楽鑑賞、カラオケ

座右の銘：努力

著作：『精神障害を乗り越えて～40歳ピアヘルパーの誕生』（文芸社）

## 西純一の精神障害者ホームヘルパー日記

---

2011年12月15日 電子版発行

著 者 西 純一

発行者 瓜谷 綱延

発行所 株式会社 文芸社

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-10-1

電話 03-5369-3060 (編集)

03-5369-2299 (販売)

<http://www.boon-gate.com>

© Junichi Nishi 2011 Coded in Japan

ISBN978-4-286-11088-2

(紙の書籍をお求めの場合には、お近くの書店にてお尋ねいただくか、文芸社ホームページ

<http://www.bungeisha.co.jp> をご参照ください。)